令和８年１月吉日
（２０２６年）

保護者の皆さまへ

吹田市立豊津西中学校
校長　森田　直樹

令和７年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、３年生を対象として「令和７年度全国学力・学習状況調査」を実施し、９月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった３年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１．教科に関する調査結果の分析

【国　語】

概　要

概ね全国正答率を越えている。「目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」、「事象や行為を表す語彙についての知識」の２点において、全国値を下回った。評価の観点である、「思考・判断・表現」の領域において、すべて全国値を越えている。「知識・技能」の領域においては、全国値を下回った。

全国値より高く、引き続き伸ばしていきたいところ

〇相手の反応を踏まえて表現を工夫すること。〇自分の考えが明確になるように構成を工夫すること。〇表現の効果について根拠を明確にして考えること。〇登場人物の設定の仕方を捉えること。

国語における「成果」、「課題」、「今後の取組み」

国語科としての成果は、物語において、登場人物の設定のされ方や、文章全体と部分の関係を的確に捉える力が培われており、書かれている場面を正確に捉えることができている。また、読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える力が身についてきている。一方課題としては、「収集した材料を的確に使用すること。」「自分の考えが正確に伝わるようにまとめること。」「事象や行為を表す言葉に関する知識。」が全国値より低く、課題となるところである。

今後、「和語・漢語をはじめ、言葉に関する知識を広げ、深めること。」「考える材料を集めるのみならず、それを利用する練習を重ねること。」「自分の考えを伝える言葉が、明確に考えが伝わる言葉、構成であるのかを推敲すること。」に取組んでいきたい。

【数　学】

概　要

　学習指導要領の全領域において全国値を上回った。評価の観点である「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点を問う問題においても全国値を上回った。形式別問題では、「選択式」「短答式」「記述式」において全国値を上回った。

各領域における成果と課題

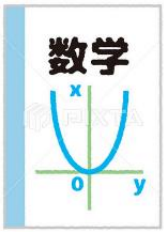
◇数と式

　「知識・技能」の観点では正答率も高く、無回答者はいなかった。記述式問題で、文字を使って方程式を作り、解を求める問題では、正答率が 40%前後となった。全国値も同様に低い正答率となっているため、全国的に問われていることの内容を読み取れない傾向がわかる。問題文を図や絵で捉え、具体的に考えることの積み重ねが必要である。

◇図形

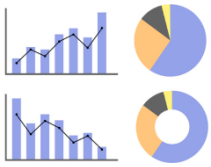
　「知識・技能」の観点では無回答率は低くなっている。正答率も全国値を上回っているものの、記述式では無回答率が高くなった。証明問題は、全国値の正答率は 30%前後で苦手分野である。本校でも 40%前後となり、課題分野である。その理由として、ある事象を論理的に文章で説明することが必要であるからと思われる。数学の時間だけではなく、普段から自分の考えや意見を、筋道を立てて文章にすることが必要である。

◇関数



　「知識・技能」の観点では無回答率は低くなっている。ある事象の関数関係を見出し、関数の式やグラフを用いて結果の説明をする問題で、全国値を上回っているが正答率が 50%を下回り、無回答率も30%を超えていた。図形の領域である証明問題と同様に、根拠を自分なりに表現させる積み重ねが必要である。

◇データの活用



　四分位範囲の意味を問う問題で、全国値とほぼ同値となった。無回答率も低かったが､問われている内容が簡単なものであったためであると思われる。昨年のように、内容を深く問われるような問であった場合は無回答率も高くなると思う。

数学における「成果」､「課題」､「今後の取組み」

　本校では、学習指導要領の全領域において、全国値を上回ってはいるが、記述式の問題において課題が見られる。文章や図から情報を取り出して記述することが求められる問題で、無回答率が高くなっている。算数から数学になり、抽象的な内容が多くなることから、中学校になって数学がわからなくなったという声が聞かれる。今までどおり､「知識・理解」を十分に定着させたうえで、必要であれば、小学校の内容をもう一度捉え直し､「具体例」「図・グラフ」「言葉」を重視した指導に取組んでいく。また、単元の最後に、獲得した知識を使った総合的な問題に取組ませる必要がある。

【理　科】

概　要

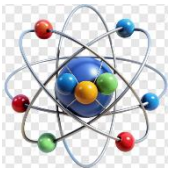
全体の平均正答数、平均 IRT スコア集積値ともには全国値を上回った。評価の観点別では「知識・技能」の問題では８/１０項目で全国値を上回り、「思考・判断・表現」の問題では９/１２項目で全国値を上回った。問題形式別では、「選択式」の問題では１１/１５項目で全国値を上回り、「短答式」の問題では１/１項目で全国値を上回り、「記述式」の問題では５/６項目で全国値を上回った。

各領域における成果と課題

◇「エネルギー」を柱とする領域

「電熱線で水をあたためるときの直列、並列においての知識が身に付いている」･「考察をより確かなものにするために、必要な実験を選択し、結果を記述できる」･「ストローの太さと音の高低に関する情報を Web ページだけを信用して考察してよいかの判断ができる」･「設定した仮説が正しい場合の実験結果の予想ができる」割合は、全国値を上回った。一方、「電気回路において抵抗がついている理由を理解している」割合は全国値を下回った。

◇「粒子」を柱とする領域



「理科の実験において精製水を使用する理由を理解できる」･「塩素の元素記号を書くことができる」･「他者が発表するのを見て自分で振り返りをすることができる」･「一酸化炭素は空気より軽いことから、火災における避難行動を選択できる」･「加熱を伴う実験において、火傷したときの適切な処置ができる」割合は、全国値を上回った。一方、「プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べることができる」･「化学変化を原子や分子のモデルで表すことができる」割合は、全国値を下回った。

◇「生命」を柱とする領域

「水の中の生物を観察し、呼吸を行う生物を選択することができる」･「植物の茎の横断面や根の構造を表現できる」･「小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造を理解する」･「消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることを理解している」割合は、全国値を上回った。一方、「スケッチに関する知識や技能が身についている」割合は全国値を下回った。

◇「地球」を柱とする領域

「地層のどの位置から水が染み出るかを理解することができる」･「地層を調べたときに何がわかればよいかを判断し、記述することができる」･「大地の変化についてボーリング調査の結果をうけて表現できる」･「気圧の知識が概念として身に付いている」割合は全国値を上回った。一方、「状態変化や圧力に関する知識をもとに、探求の過程の見通しについて分析できる」割合は全国値を下回った。

理科における「成果」、「課題」、「今後の取り組み」について

◇成　果

全体の１７/２２の領域について全国値を上回っている。日常の授業時のはじめには前時の振り返りの時間をもつことを毎回行っており、その効果が表れていると考えられる。また、授業の時間内に教員が説明したことを、他者に説明する時間をとっている。この時間をとることで、その時間の内容が整理できると考えられる。実験については安全性も含め、目的や方法などを事前に細かく説明していることで、実験の効果を高められていると考えられる。知識の定着を図るため、「小テスト」を繰り返し行った。その結果、「粒子」を柱とする領域の「元素記号」や、「エネルギー」を柱とする領域の「電気回路」では、全国値を上回ったことにつながっていると考えられる。

◇課　題

各領域から１つずつではあるが、全国値を下回ったものがある。特に記述式の問題が複数含まれている。まずは知識を習得したうえで、自分の言葉で表現できる力を育成すべきだと感じている。グループワークでは、お互いの意見を出し合うことは行っているが、出された意見を文字化し、記録することが苦手に感じる生徒が多くいるように思う。発表だけでなく、聞いたことを記録する練習をもっとすべきだと感じた。

◇今後の取り組み

理科と日常生活のつながりをより意識するような授業を展開することで、理科の知識や学習意欲につながると思われる。各領域において身近な題材を積極的に取り入れていきたい。特に実験においては、出てきた結果を考察するだけでなく、その結果と日常生活との関わりまでをまとめていく必要がある。

２．生活習慣や学習環境等に関する調査結果の傾向

【基本的生活習慣】

・「朝食を毎日食べている。」と「毎日同じくらいの時刻に起きている。」は昨年度よりやや上がり、全国値よりもやや上回った。

・「毎日同じ時刻に寝ている。」は全国値をやや上回った。「普段１日当たり、２時間以上勉強している。」と回答した割合は昨年度及び全国値を上回った。このことから、概ね基本的な生活習慣は身についている傾向が見える。また、「新聞をほとんど、または全く読まない。」は、全国値と同様の傾向がみられる。

【学習習慣　学習環境】

・土、日の学習について２時間以上勉強している割合は、昨年度をやや下回ったが、「全くしない～１時間未満」の割合は、昨年度を下回った。普段、土、日をとおして学習時間を２時間程度は作る傾向にあることがわかる。

・「普段（月曜から金曜）読書をする時間」については、ほぼ全国値と同じ傾向にある。ただ、「読書が好きですか。」の質問に対しては、肯定的回答が大阪府値・全国値をやや下回った。

【ICT を活用した学習状況】

・「普段の１日当たりの PC、タブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っている時間」については、ほぼ全国値と同じ傾向にある。

・「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。」「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。」についても、ほぼ全国値と同じ傾向にある。

・「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。」「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。」については、全国値をやや上回っていることから、基本的スキルが身についていることがわかる。

【伝える力の育成】

・「１、２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」については、昨年度をやや上回り全国値を上回っている。

・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取組んでいますか。」については、ほぼ全国値と同じ傾向にあるが、強肯定は全国値を上回っている。

【達成感、規範意識、自己有用感】

・「自分によいところがあると思う。」「先生はあなたの良いところを認めてくれる。」「将来の夢や目標を持っている。」など、肯定的な回答率が全国値をやや上回った。

・「困りごとや不安があるとき先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」については、全国値を上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思う。」については、全員が肯定的回答であった。

・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」については、全国値と同じ傾向にある。

・「友達関係に満足していますか」「普段の生活で幸せな気持ちになる」の強肯定の割合は全国値を上回った。

３．今後の取組み

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、以下の点に力を入れて取組んでまいります。

〇個に応じたきめ細かな指導を推進します。

〇「伝える力の育成」を努力目標とし、ペア学習やグループ活動に力を入れ、ＩＣＴを有効に活用した授業改善に取組んでまいります。

〇授業、学校行事、その他学校教育活動全体を通じて、普段からお互いを認め合い協力しあえる集団作りを目指します。

〇「総合的な学習」の時間を活用し、様々な体験的活動をとおし、「ＳＤＧｓ」や「福祉」「キャリア教育」に取組み、これからを生きる生徒たちと「今後の社会について」や「自分の生き方」についてともに考えてまいります。

〇「道徳」「特別活動」を充実させ、「自己肯定感」「自己有用感」を高めるとともに、集団や社会の一員として果たす役割を考える機会を数多く作ります。

〇朝読書を中心に、読書活動の充実を図ります。